第9特別演奏会

新響　合唱団鯨

'68.12.23.

新交響楽協会 新交響楽団特別演奏会

THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA Concert

指揮	芥川也寸志	合唱	鯨
Conductor	**YASUSHI AKUTAGAWA**	**Chorus**	**KUJIRA**

ソプラノ	常森寿子	テノール	金谷良三
Soprano	**TOSHIKO TSUNEMORI**	**Tenor**	**RYOZO KANAYA**
アルト	子安順子	バリトン	蔵田裕行
Alto	**JUNKO KOYASU**	**Bariton**	**HIROYUKI KURATA**

I フーガ ト短調 “小追複曲” ……バッハ-ストコフスキー

Fugue in G-minor “Little” ……Bach-Stokowski

II 交響曲第9番 ニ短調 “合唱付” 作品 125 ……L. V. ベートーヴェン

Symphony No. 9 D-minor “Choral” op. 125 ……L. V. Beethoven

1 アレグロ マ ノン トロッポ ウン ポコ マエストーソ

Allegro ma non troppo, un poco maestoso

2 モルト ヴィヴァーチェ

Molto vivace

3 アダージョ モルト エ カンタービレ

Adagio molto e cantabile

4 フィナーレ

Finale

1968 年 12 月 23 日（月），12 月 26 日（木）7時 日比谷公会堂

芥川也寸志



最近，プロ，アマを含めてオーケストラ，コーラスの指揮をする機会が多くなったようだ。アマチュアサークルに対する熱の入れようはまた，格別である。

昭和30年以来，週1回の練習を休まない新響はもちろんのこと，ちょうど1年たった「鯨」へも毎週，顔をみせるし，9月，10月の間は，北九州市のアマチュア・オーケストラのため，毎週飛行機で九州まで飛ぶ熱心さである。以前からの主張である“全国の町にオーケストラを”は，まだ，体内にたぎりたっているようだ。しかもその間に，ラジオ，テレビの番組が待っているし，本職の作曲の仕事もおろそかにしない。

今回は，手塩にかけたアマチュア2団体をひきい第9のタクトをとる。彼の所信の一応の成果ともいえよう。昭和24年，東京音楽学校研究科作曲部を卒業，作品は，＜交響三章＞など多数。文豪・龍之介の3男，43歳。

独唱者の紹介

ソプラノ

常森　寿子



昭和39年，東京芸術大学声学科卒業後，東京混声合唱団にむかえられた。

昭和41年，藤原オペラの正月公演“カルメン”のミカエラ役でデビュー。のち，“夜間飛行”“トスカ”“ヘンゼルとグレーテル”“暗い鏡”など各オペラで大役を演じた。新響とは昭和41年，本年10月と3回目の共演である。

アルト

子安　順子



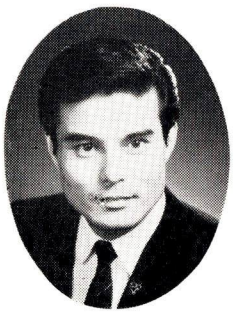
昭和33年，東京芸術大学声学科を卒業した。佐々木成子，渡辺高之助の両氏に師事した。

在学中（昭和31年）から東京混声合唱団に在籍し，現在にいたっている。

昭和10年生れ。

テノール

金谷　良三

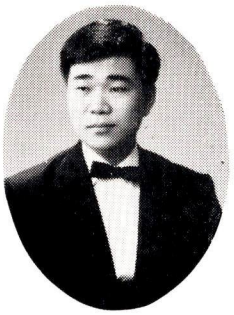


昭和34年，東京芸術大学声学科を卒業。東京混声合唱団の創立と同時にメンバーとなり，現在では“東混の金谷”として合唱界に不動の位置をしめている。

オペラ“ドン・ジョバンニ”でのドンドッタヴィオ役など数多く活動している。新響とは，さる41年の第9以来，2回目のつきあいである。

バリトン

蔵田　裕行



東京芸大，同大学院卒。ネトケ・レーベ，中山悌一に師事。1965年，オーストリー政府給費生としてウィーンアカデミーに留学。'67年オペラ科を，'68年リート・オラトリオ科を首席で卒業し，のち欧州各地で公演，好評を得た。さる3月に帰国，東京，京都でリサイタルをひらき好評。ラジオ，TV で活躍している。

曲目解説

フーガ　ト短調　BWV 578

バッハ-ストコフスキー

バッハは，オルガンのためのフーガをあわせて6曲つくった。そのほとんどは，バッハがワイマールにいた時代，およびそれ以前の作である。この「フーガ」ト短調は，1710年，バッハが24歳のとき，ワイマールで作曲された。

当時，バッハが研究していたイタリアの様式をこの曲に取り入れたあとがはっきりしている。すなわち，主題は生き生きとして美しく，リズムも活気があって，バッハのオルガン曲のなかでも，最も親しみやすいものの一つとなっている。

そして，その親しみやすい曲風のため，管弦楽曲に編曲されて演奏される機会も多い。こんや，演奏するものは，ストコフスキーの編曲によるものである。なお，この曲は，一般に「ト短調の小フーガ」と呼ばれているが，これは，同じト短調の「幻想曲とフーガ」(BWV 542)の「ト短調の大フーガ」と区別するためである。

交響曲第9番　ニ短調　作品 125

ベートーヴェン

「われわれが欲しそして感ずること，すなわち高潔な人間の最も本質的な要求にのみ芸術形式を与えること」

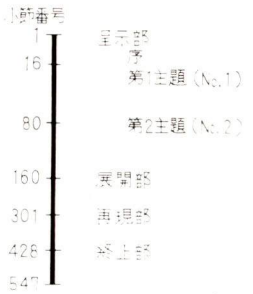
ベートーヴェン

1824年5月7日に初演された。このときにはふたりの指揮者が指揮台に立った。作曲者ベートーヴェン自身とウムラウフ。楽員はウムラウフだけを頼りにして演奏したが，ベートーヴェンの指揮は感激的であった。演奏の結果は大成功であったが，万雷の拍手もすでに耳の悪くなっていたベートーヴェンには聞こえなかった。アルトの歌手が，かれの手をとって聴衆の方へ向けてやったので，初めてその拍手を知ることができた。
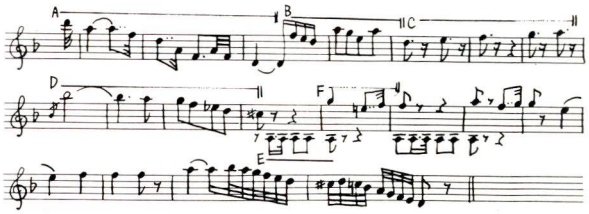
この交響曲は，ベートーヴェンの他の交響曲と同じく四つの楽章からできているが，最後の楽章に4人の独唱と合唱が加えられており，独自の構成を示している。そのテキストとして，シラーの詩「歓喜へ」が用いられている。

〔**第1楽章**〕 Allegro ma non troppo　ニ短調　2/4
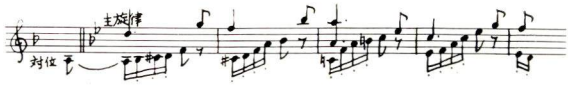
きわめて大規模な四部構成のソナタ形式で書かれ，弦楽器による冒頭の不安な感じの序の部分とそれに続く第1主題がこの楽章を支配している。



〔**No. 1**〕 オーケストラ全奏で力強く
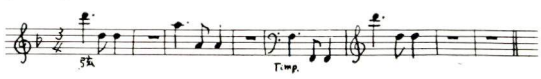


〔**No. 2**〕 木管の主旋律に弦が対位



〔**第2楽章**〕 Molto vivace　ニ短調　3/4

この楽章はスケルツォ-トリオ-スケルツォに当たる3部形式であるが，スケルツォはソナタ形式の構成で書かれている。
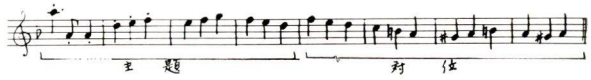
〔**No. 3**〕
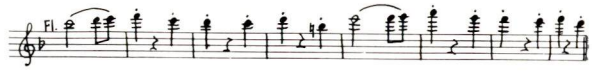


小節番号

1 第1部（Molto vivace 3/4）
導入（No.3）
9 第1主題（No.4）
93 第2主題（No.5）
151 展開部
272 再現部
412 第2部（Presto 2/4）
416 主題（No.6）
422 展開的（No.7）
491 自由な発展
531 第3部分（Prest 2/4）
926 コーダ
954
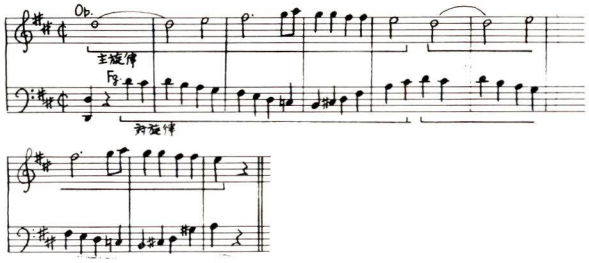
〔No. 4〕



〔No. 5〕



〔No. 6〕



〔No. 7〕 ヴィオラ，チェロによるのびのびとした旋律



〔第 3 楽章〕 Adagio molto e cantabile 4/4……

ゆっくりとしたこの楽章は，美しい旋律に色どられた，しかも深い祈りを表わすような曲である。形式的には，主題とその変容とでできた七つの部分からなっている。
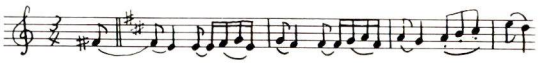
小節番号

1 第1部
A主題（No.8）
25 第2部
B主題（No.9）
43 第3部 Aの変奏
65 第4部 Bを木管で
83 第5部 中間部
99 第6部 Aの変奏
121 第7部 終止部
157 ファンファーレ（No.10）

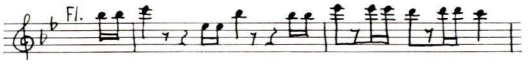
〔No. 8〕 ファゴットの序につづいて Vl I で奏される。



〔No. 9〕 Vl II と Vlaで静かに……



〔No. 10〕



（3楽章と4楽章は，間をとらずに演奏されることが多い）

〔第 4 楽章〕 Prest Finale……

この楽章こそは，ベートーヴェンがこの交響曲で表現しようとした思想の発露であり，管弦楽に加えて4人の独唱と合唱の声楽が用いられている。全体は九つの部分からできている。
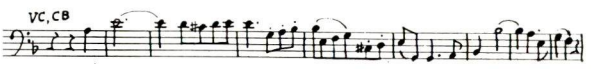
小節番号

1 **第 1 部** 強烈な不協和音の序（No. 11）で始められる。このあと低弦によるレシタティーブ（No. 12）が現われるが，後にバリトン独唱によって歌われるように，打消しの意味をもっている。1，2，3 楽章の断片が現われるけれども，すべて打消される。

〔No. 11〕
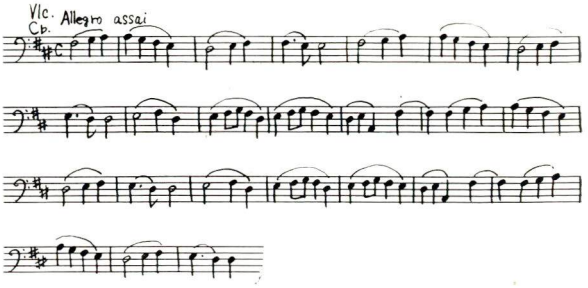


〔No. 12〕 レシタティーブ



92 **第2部** セロとバスによって，歓喜の主題（No. 13）が奏される。

208 **第3部** 第1部と同じ序で始められ，バリトンの独唱によって，No. 12と同じレシタティーブが歌われる。

〔No. 13〕
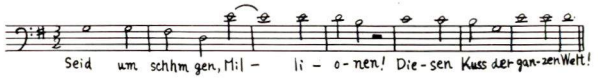


237 **第4部** バリトン独唱と合唱のバスによって“Freude”が叫ばれ，歓喜の主題が歌われる（No. 14）。続いて別の歌詞により独唱の4重唱。

〔No. 14〕

“Freude, schöner Götterffunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder, was
die Mode streng geteilt,
Alle Menschen werden Brüder
Wo dein sanfter Flügel weilt”

331 **第5部** Allegro assai vivace 6/8
行進曲風に主要主題が変奏される。
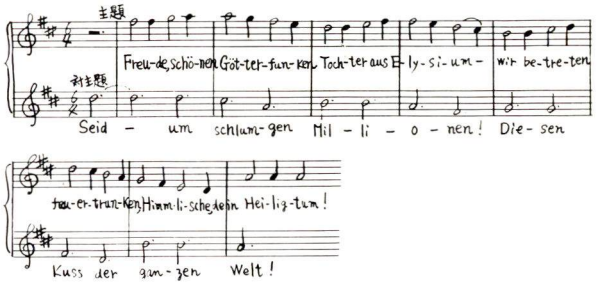
〔No. 15〕



594 **第6部** Andante maestoso 3/2
速度をゆるめ，3拍子で次の歌が歌われる。（No. 15）

655 **第7部** Allegro energico 6/4
フーガ的大展開が行なわれる。（No. 16）

〔No. 16〕



763 **第8部** Allegro ma non tanto 2/2
主要主題の旋律にもとづく急速な動きが導入的に示され，続いてテノールとバリトンの独唱（No. 17）による4重唱。

〔No. 17〕



843 **第9部** Poco Allegto, Prestissimo 2/2
まず管楽器によって，次の主題が奏され（No. 18），4声部の合唱にうつる。
音楽は一度マエストーソになり，合唱が響きわたるが，それの終りとともに，再びPrestissimoになり，急速に，かつ快活にこの大曲を終結する。

〔No. 18〕



940

（新響コントラバス　伊賀　健一）

交歓会　再録

新交響楽団　合唱団　鯨
ベルリン聖ヘドウィッヒ大聖堂合唱団
ボン・ベートーヴェンホール交響楽団

さきほど来日した「ボン・ベートーヴェンホール交響楽団」「ベルリン聖ヘドウィッヒ大聖堂合唱団」と「新響」「鯨」のピックアップメンバーによる交歓会が，11月9日夜，ホテル・ニューオータニで行なわれた。ドイツ側とは，ほんのちょっとした機会で知り合いになったのである。外は冷い秋雨がしとついていたが，お互いに日本のビールを汲みかわし，日本料理をつっきながら，熱っぽい空気で話が交わされた。

ちょうどその日，かれらはベートーヴェンの「荘厳ミサ」を演奏した直後であった。そして，前日，武道館で第9交響曲を演奏したばかりである。

かれらは，「もっと早く知りあいになりたかった」と繰り返し言い，たいそう残念そうであった。なお，合唱団は純然たるアマチュアだそうであるが，話し合っているうち，日本人がよく気にする“アマ”“プロ”といった隔壁はついに感じとることができなかった。もっとも，これが音楽をする人の本当のすがたでなければならないはずなのだ。

以下，当夜の交歓ぶりをメモ帳から再現してみよう。

休暇を利用し，世界中へ演奏旅行している

〔おことわり〕

この座談会には，ドイツ側から6名，新響から11名，また，鯨から6名が出席し，合計23名の大交歓会となりました。日本語，ドイツ語英語など乱れとび，あとでテープをききますと，だれの発言だか，さだかでありません。そこで，ここでは問，答という形式で話をすすめることにいたします。

演奏旅行には上司や教授の理解がある

問　合唱団は純粋のアマチュア，すなわち，職業をお持ちの方や，学生であったりするわけですが，今回，わが国へ演奏旅行されるにあたってそういう面でどう処置されましたか。

答　私たちは実際アマチュアなんです。たとえば，ヴェレナはベルリンの工業高校電気科で助手をしていますし，ラインハルトは，医学大学の学生です。今回，日本へは約2週間の予定で演奏旅行にきましたが，これは短かい方なのです。

ふつうは4～5週間ぐらいかけますよ。

こうするため，夏休みなどの休暇を仕事や勉強に替えます。こういったことについては，われわれの教授や会社の経営者は，とても理解があるんですよ。

問　私たち新響も昨年，約3週間のスケジュールでソ連へ演奏旅行いたしました。しかし，その休暇をとることに苦労した人が多かったのです。無論，時間的にもそうですが，日本では，まだまだそういった面での理解が薄いのです。さらに，経済的にもむずかしい問題がいくつも横たわっております。

お国では，そういう面はいかがでしょうか。

答　われわれがこんど日本へくる場合，ドイツ連邦共和国，放送局，各会社など，方々から援助がありました。

そういう方針を貫ぬくことで文化が向上するものだし，また，伝統が保たれるのだと，私たちドイツ人は確信しております。

◇ 出席者 ◇

☆ボン・ベートーヴェンホール交響楽団

- マックス・ベネッケン (Vl)
- ロベルト・レンナー (Vl)
- ペーター・ホルツマン (VC)
- ヨアヒム・ガイラ (Hor)

☆ベルリン聖ヘドウィッヒ大聖堂合唱団

- ヴェレナ・ベルシュマン (Alto)
- ラインハルト・ヴィピヒ (Bass)

☆新交響楽団（アイウエオ順）

- 石川嘉一 (VC)
- 稲垣吉子 (Vl)
- 河野土洋 (Vl)
- 井上卓也 (Ob)
- 里見親一 (Hor)
- 桜井哲雄 (Ob)
- 仙名誠子 (Vla)
- 仙名保 (Fg)
- 松崎譲二 (Cla)
- 中島哲也 (Vla)
- 矢嶋克明 (Vla)

☆鯨（アイウエオ順）

- 今村典子 (Sop)
- 岡崎比佐子 (Alto)
- 高橋章夫 (Bass)
- 宮崎敬 (Tenor)
- 守屋孝 (Bass)
- 八星礼一 (Bass)

合唱団は団費などいっさいなし，市から補助金が出ている

問　合唱団の練習は，どのようになさっていますか。

答　毎週２回，火曜と木曜に，仕事が終ってから，午後６時～９時まで練習をします。

こんど，日本へ演奏旅行するまえとくに，第９交響曲をステージにのせるため，相当，練習回数を増やしました。

問　演奏回数は，どのくらいですか。

答　定期演奏会は，年に４～５回あります。他に，小さな音楽会や依頼演奏会，オペラのコーラスに出ることもあります。

また，日曜には教会でミサを，ア・カペラでうたっています。

問　教会といいますと？

答　そこの教会が練習場になっているのです。

問　合唱団へ団費のようなものを納めていますか。

答　とんでもない。合唱団には市から援助金が出ています。ただ，演奏旅行の場合はある程度負担しなければなりません。こんどの日本演奏旅行には，日本円に換算して約３万円ほど分担しました。

問　合唱団は，だれでもはいれますか。

答　一応，歌唱の試験があります。仕事が忙しくて長い間やすみ，再入団するような場合は，やはり，試験を受けていただきます。

問　指揮者に一番よく注意されることは何でしょうか。

答　pp や f などのうたい方に関することが多いです。しかし，そんなときは，たいへんはずかしいですね。私たちはうたいに集まっているのにうたい方を直されるというのはいやですね。

問　アマチュアとプロ団体が合同演奏することはありますか。

答　ベルリンにはプロのコーラスは一つしかなく，それも小人数ですので，レコーディングのときなど，よく応援にゆきます。もちろん，われわれの名前は表面に出ませんけれども……。

レクィエムや第９などはいつでもアマチュアだけでうたいますよ。特別に練習なんかしなくとも，みんなよく知っていますし，また，知ってなければいけない，たいせつな曲ですからね。

問　レパートリーは，どうしてきめますか。

答　当然，指揮者に一任しています。かれが，われわれの仲間では一番音楽を愛していますからね。

問　事務の処理はどうやっていますか。

答　専門の事務員が，ひとりおります。

ベートーヴェン生誕地の名誉あるオーケストラ

問　次に，ボン・ベートーヴェンホール交響楽団についてお伺いしたいと思います。

まず，演奏活動から……。

答　われわれのオーケストラは，60 年の歴史を有しています。戦後ボンにベートーヴェンホールが新設されたので，ここを本拠にし，毎月４回定期演奏会を催しております。他の日は，毎晩オペラを上演しています。

曲目は，やはりベートーヴェンの作品が多いですね。

むずかしい第９交響曲

問　ボン・ベートーヴェンホール交響楽団は，第９をステージにのせるまでに，どのくらい練習をしますか。

答　最低，６回のリハーサルをします。しかし，それでもなかなかうまい演奏はできません。

問　ヴァイオリンの方にお尋ねしますが，どなたについて習われましたか。

答　先生はシェフシックです。私

＜ なにはともあれ，まず乾杯 ＞



＜ 石川氏（新響，チェロ）の名通訳ぶり ＞
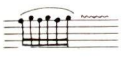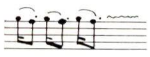


は，チェコのプラハに生まれて，そこで育ったんですよ。

問 シェフシックの書いたヴァイオリン奏法の教則本がありますね。あれには，ずいぶん悩まされたものです。

ところで，練習のコツといったものを……。

答 先生についたのは，私がまだ小さいときのことですが，先生はたいへん朝が早いのです。朝食まえにも練習されるんですが，それは決して長い時間ではありません。アメリカなどでは10時間ちかく連続して練習するといいますけど，そんなことはありませんでした。だいいち（頭を指さして）とても不可能なことです。

練習は，とくにロングトーンに重きをおいていました。また，右手のボーイングについては，その人の最もやりやすい方法でよいということで，無理に矯正されませんでした。

それから，トリルのやり方ですが，でなく，というふうにしなさい，といったことを覚えております。

問 どんな曲がお得意ですか。

答 ベートーヴェン，モーツァルト，リヒアルト・シュトラウスなどですね。

問 日本人の作品を演奏なさいましたか。

答 いいえ，どういうわけだか日本の曲はまだこちらへはいってこないんです。でも，きっと絢爛なものだと思います。そして，ヨーロッパ風な大きな感じより，むしろ，繊細な（手ぶりをしながら）感じがすると思います。

よくない武道館

問 あちこち日本をまわられたようですが，わが国の聴衆やホールはいかがでしたか。

答 いままで，福岡，広島，名古屋，大阪，そして東京と演奏会をひらいてまいりました。こんやの東京文化会館はりっぱですけど，あまり演奏しやすいとはいえません。

また，昨日の武道館はひびきすぎてしまって，とても音楽を楽しむ場所ではないようですね。音楽は心から心へ伝わるべきものであるはずなのに，武道館の場合は壁から壁への伝達だといってよいでしょう。

日本の都市には，数多くの新しいホールができているのには感心しましたが，最も演奏しやすかったのは大阪のフェスティバル・ホールだったようです。しかし，ホール内部のきたない点は問題外ですが……。

やはり音楽は，なにか訴えるものがある環境で演奏すべきだと思います。

◆どうも長い間，ありがとうございました。

◇
対話はますます佳境へはいる
◇



あ と が き

以上のような調子で話に花が咲き，時間がたつのを忘れるほど熱気のこもった交歓会になりました。お話を聞くと，伝統あるドイツでさえ，アマ，プロを問わず，充分な練習を行ない，つねによりよい音楽を演奏しようとつとめているようです。

それにひきかえ，日本の現状をみますと，プロのオーケストラなど2，3回の練習で，ステージにのっており，かえって，それを自慢にしているような風潮さえあるようです。これは，けっしてりっぱなことでないような気がしてなりません。

当夜，ドイツ側からわれわれへ，「なぜ，日本人はベートーヴェンが好きなのか？」と質問されました。私としては，「なぜ，好きなのか」ということはそれほど問題ではなく，音楽そのものを楽しむのが大事なのではないかと思います。

12月になると，第9が数多く演奏されます。しかし，それらのほとんどはプロ団体によるもので，ほとんどが数回の練習をしただけで本番となってしまいます。それにひきかえ，私たち，「新響」と「鯨」のアマチュアグループは何カ月も第9のために練習を繰り返してきました。プロにはない熱気をくみとっていただき，私たちの音楽を楽しんでいただければ幸いです。

（矢　嶋）



新交響楽協会

新　交　響　楽　団

▷労音アンサンブル時代（1955年）

新響の前身が労音アンサンブルと呼ばれていたことは，もう指揮者・芥川氏のほか，２，３の人しか知らない。

1955年２月，東京労音会員の音楽愛好者，約40名によってこのアンサンブルはスタートした。編成はバラバラながらも，この楽団は労音会員に歓迎され，各地の文化祭などに出演するようになった。ところで，この年の11月，芥川氏が練習場へ姿を現わした。氏と新響とのつながりはここにスタートする。

1956年１月，小編成のアンサンブルから本格的なシンフォニーオーケストラへ脱皮することを計画，名称を“新交響楽団”と改めた。

そして，その後，しばらくの間，演奏活動は中止し，芥川氏のきびしいトレーニングを受けることになった。

第１回定期――1957年11月21日，日本青年館にて。「運命」ほか。

第２回定期――1958年11月12日，日本青年館で。モーツァルトの交響曲41番ほか。1959年，はじめて会津若松へ演奏旅行に出かけている。

▷労音例会出演，第２オーケストラの誕生など

1960年から地方労音の出演依頼に応ずることとなり，上田，熊谷の両労音へ出かけた。

ところで，第２回定期の前後から，メンバーの人員，技術レベルなどに差がめだつようになり，オーケストラを二つに分ける案が芥川氏から提案された。結局，１年がかりで実現することになるが，これは同様な波及効果となって現われ，第３オーケストラの誕生，ブラスオーケストラの編成などへと発展する。

東京労音に出演――1962年４月。

第９交響曲演奏――1963年12月，東京労音例会で第９を５回演奏。

北海道演奏旅行――1964年４月。

四国演奏旅行――1965年４月。

▷新交響楽協会設立，労音から分離

新響はそのときまで東京労音のバックアップで運営されてきたが，労音側と意見が対立。ついに，1966年３月，新交響楽協会を設立して，自主独立の道を歩むことになった。

その後，1966年9～12月にわたる，ベートーヴェン交響曲全曲の連続演奏会を行ない，1967年９月～10月にかけて実施したソ連演奏旅行というアマチュアオーケストラとしては前代未聞の壮挙をなしとげた。

1968年は，比較的，地味な活動ではあったが，東響との合同演奏会，初の客演指揮者――近衛秀麿氏をむかえてのモーツァルト特集演奏会をひらくなど，着実に発展し，実力をたくわえた。

社会人，学生からなるユニークなこのシンフォニーオーケストラは，過去の実績を土台にし，未知の分野に挑もうとしている。



合唱団　鯨

芥川氏を中心に，約20名の人が集まって創立総会を開いたのが，昨年の12月4日。

その目標とするところは，今までのアマチュア合唱団の持つ限界を一歩ずつのりこえ，ひとびとの生活に根ざした，本当の音楽をつくり出し，つみあげていこう，というところにあった。

現在，340名。大世帯である。だが，まだ足りない。技術的にも，組織的にも単一のアマチュア合唱団として，オラトリオを完全にこなせる大合唱団を目標の一つとして目指しているからだ。

演奏活動は，7月3日に第1回定演，12月8日にはファミリーコンサート，その間2回のTV出演と，東響定演の第9。そして今回，同じアマチュアという分野で活躍している大先輩「新響」と第9の公演を行なうことになった。

アマチュアには，時間的・経済的，その他かなりの困難がある。

そういう意味では，それらの困難をのりこえて，海外へ演奏旅行をした新響は，”鯨“ には一つの目標だ。

団員ひとりひとりは，たとえアマチュアではあっても，その持っている情熱は，決してプロ合唱団にひけはとらない。そして，発足1年で得た，さまざまな経験を生かし，未来にむかって大海へのりだそうとしている。

＜合唱団　“鯨”　本年度演奏活動記録＞

7月3日	第1回定期演奏会　於　虎ノ門ホール
7月30日	TBS テレビ（録画）出演（コンサートコンサート）
11月24日	TBS テレビ出演（新春コンサート）
12月8日	ファミリーコンサート　於　都市センターホール
12月9日	東響定期演奏会出演（第9）於　東京文化会館
12月22日	東響第9特別演奏会出演　於　東京文化会館

歓喜の歌



芥川也寸志

新響が創立されたのは 12 年前，合唱団“鯨”が創立されたのは1年前，そこに10年あまりの年のひらきこそありますが，ともに私が中心になって創られた団体ですから，可愛いなどというところはもうとっくに通り越してしまい，その成長が私の生きがいの一つになり，心の支えにさえなってしまいました。

合唱団“鯨”がたどってきたこの1年たらずの歩みは，新響が経験した初期数年間の歩みに比べれば，比較にはならぬほど順調なものでした。無論そこには，器楽人口と合唱人口との圧倒的な差や，楽器というもとでのかからない合唱にとっての有利な条件があるにせよ，何よりもこの 10 年間における社会的状況の変化のおかげで，新響の味わったような苦しみを，“鯨”は味わずにすんだのだろうと思います。

12 年前には，練習場一つを探すだけでも，それは大変な労力を費したものでした。団員たちに，楽譜購入の負担をかけることは出来ませんでした。

そんな苦しみを若い“鯨”は知りません。

しかし，それは“鯨”にとって本当に幸せなことであったかどうか，簡単にはいえません。アマチュアの音楽が，個人の楽しみをこえて意味を持つのは，個人生活の犠牲の上に行なわれるきびしいトレーニングの，その苦しみの中から見つけ出したよろこびというものが如何に大きく，その歓喜の歌が演奏を通して，聴衆に感銘を与えるのだ」ということを，みんなが知ったときからだからです。

感銘度の高い演奏を生み出す可能性が，アマチュアのオーケストラやコーラスには無限に存在することを，私は固く信じて疑いません。新響と“鯨”がこれから成長していくにつれて，この私の信念はますます固いものになるでしょう。

新響と“鯨”のある限り，私は幸せです。どんなにつらいことがあろうとも，どんなに苦しいことがあろうとも，私は幸せです。

新響・次回演奏会予告

第18回 定期演奏会

日　時　1969年4月1日(火)午後 7時

会　場　東京文化会館大ホール

曲　目　1) 組曲「道化師」……カバレフスキー

2) ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調……ベートーヴェン

3) 交響曲 第5番 ……ショスタコビッチ

演　奏　新交響楽団

独　奏　岡本梨影

指　揮　芥川也寸志

入場料　500円，400円，300円(予価)（各プレイガイドで発売予定）

新響の団員を募集しています

メンバー表を見てもわかるとおり，新響団員は，サラリーマン，学生，主婦などで構成され，音楽を職業としている者はおりません。

どなたでも，簡単なテストを受けて団員になることができます。

問合せ先　千代田区神田駿河台3の6　全電通会館（日音協気付）

新交響楽協会　TEL.(253) 9831

輸入楽譜 のことなら，どんな事でも御相談ください。

管弦楽，器楽曲譜面，沢山在庫しています。

アカデミア・ミュージック株式会社

文京区本郷2丁目26—11

TEL. 813—6751(代)　都電・本郷二丁目　地下鉄・本郷三丁目